

第 15 回クラシックを楽しむ会

2014 年 10 月 26 日 (日) 18:30~21:30

歌劇「ジャンニ・スキッキ」(プッチーニ)

会場等：メトロポリタン歌劇場 2007 年 4 月 28 日
楽団等：メトロポリタン歌劇場管弦楽団、同合唱団
指揮：ジェームズ・レバイン
演出：ジャック・オブライエン



ラウレッタ、ジャンニ・スキッキ、リヌッチョ

出演：アレッサンドロ・コルベッリ (ジャンニ・スキッキ)
オリガ・ミキテンコ (ラウレッタ：ジャンニ・スキッキの娘)
マッシモ・ジョルダノ (リヌッチョ：ラウレッタの恋人)
ステファニー・ブライス (ツィータ)
ドナート・ディ・ステファノ (シモーネ)
ポール・プリシュカ (スピネッロッチョ)
その他

歌劇「ジャンニ・スキッキ」あらすじ

息を引き取った金持ち老人の遺言書に、遺産はすべて修道院に寄付すると書かれていて、遺産目当ての親戚一同大慌て。助けを求められた法律に明るいジャンニ・スキッキは偽の遺言書をでっち上げ、莫大な遺産を横領するという見事な喜劇に仕立てる。

ジャンニ・スキッキの娘ラウレッタの歌う可憐なアリア「私のお父さん」は誰もが知る名曲。

歌劇「ジャンニ・スキッキ」について

・プッチーニが完成した最後の作品で、活力と機知に富んだ唯一の喜劇。

歌劇「外套」、歌劇「修道女アンジェリカ」とともに**歌劇「三部作」**を構成。一晩で性格の異なる三つの一幕歌劇を上演することを意図。1918年にメトロポリタン歌劇場で初演。舞台構成上も出演者をそろえるのも大変な作品のため三部作一挙上演の機会は多くない。

・歌劇「ジャンニ・スキッキ」の原作はダンテの「神曲」地獄篇第 30 歌。

指揮者ジェームズ・レバインについて

今や MET (メトロポリタン歌劇場) の代名詞とも言えるジェームズ・レバインは 1943 年生まれ。1971 年に MET の指揮台に立って以来、音楽監督を経て 1986 年からは MET 初の芸術監督に就任。MET を世界一流のオーケストラに高め 40 数年間君臨し続ける。なお持病の他、本公演前年から腰痛、悪性腫瘍などの健康不安を抱えながら指揮台に立っている。



第 16 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：歌劇「セビリヤの理髪師」(ロッシーニ)

11 月 23 日(日)18 時開場、18 時 30 分上映開始

1981 年グラインドボーン音楽祭。序曲からフィナーレまで、すべてが美しいメロディの宝庫。「フィガロの結婚」の前史に当たり、おなじみのフィガロが大活躍します。

12 月はヨハン・シュトラウスの喜歌劇「こうもり」を予定。

【時と場所】

1299年9月1日の朝、フィレンツェ。

ジャック・オブライエンによる本公演の演出は1950年代後半に設定。

【全1幕の舞台】息を引き取った金持ち老人の寝室とテラス

裕福な守銭奴老人ブオーゾ・ドナーティが息を引き取り、見守っていた親族一同は嘆き悲しむが、実は遺産の行方を気にしている。遺言書に遺産は修道院に寄付すると書かれているとの噂に、貪欲な一同は必死に部屋を探しだす。ブオーゾの従妹ツィータの甥のリヌッチォが遺言書を見つける。

リヌッチォは叔母のツィータに「もしブオーゾが遺産を残してくれて金持ちになれたなら恋人のラウレッタとの結婚を許して」と懇願する。

一同が遺言書に見入っている隙に、リヌッチォはラウレッタとその父ジャンニ・スキッキを呼びにやる。

遺言書には噂通り「遺産は修道院に寄付する」と書かれていて一同落胆。何かいい知恵はないものか思索していると、リヌッチォは恋人の父スキッキを推薦。皆が反対するのでリヌッチォは**アリア「フィレンツェは花咲く木のように」**を歌ってフィレンツェを讃え、快くスキッキを迎えようと提案する。

そこへスキッキが娘ラウレッタとともに現れる。

スキッキは皆の落胆した様子に、お悔やみをいいつつも、遺産が転がり込むだろうと皮肉を言う。

リヌッチォはブオーゾの遺言書をよんで、うまく助けてくれと頼むが、スキッキはこんなわからずや達の利益なんか考えるのは御免だと断る。

そのときラウレッタが父の前にひざまずき、**アリア「わたしのお父さん」**を歌ってリヌッチォとの結婚を認めてくれるよう哀願する。娘の願いにスキッキは遺言書を読み、考え込む。

スキッキは一同にブオーゾの死が外に漏れていないことを確かめると、寝台を整えさせ、自分がブオーゾになりすまし、公証人に改めて遺言書を作らせることにする。

感激した一同は、スキッキを誉め、抱き合って喜び、リヌッチォは公証人を呼びに行く。

一同は遺産の分配について考え始め、それぞれ希望をのべ、勝手な欲を主張しあって大騒ぎ。スキッキはそれを眺めて大笑い。

浮かれる一同を制し、スキッキは真面目な顔をして、もしも遺言書を書き換えたことがバレれば、みんな右手を手首から切られ、この町から追放されると告げ、皆を震え上がらせる。さらに二度とフィレンツェには戻れないぞと**「さらばフィレンツェ」**を歌って脅かし、一同をすっかりおびえさせる。

まもなく公証人がふたりの証人を連れてやってくる。

ブオーゾになりすましたスキッキは改めて遺言を述べたいと訴える。まず先の遺言の無効を宣言した上で、一同の者に、それぞれ望みのものをひとつおとり与えてから、ブオーゾの遺産で一番価値のある、トスカナー一番のロバとこの邸宅、さらに粉ひき場もブオーゾの友人スキッキに与えると言う。一同が騒ぎ出すと、「さらばフィレンツェ」と口ずさみ、手首を切り取られることを思い出させて遺言を終える。

公証人たちが外に出ると、親戚一同は、泥棒！と叫びながら、スキッキに飛びかかるが、彼は杖を振り回し、ここは自分の家だと追い払う。一同は手当たりしだい金目のものや手近な品を持てるだけ持って、怒鳴り散らしながら追われて出てゆく。

やっと静かになると、テラスではようやく結ばれることになったリヌッチォとラウレッタが幸せに酔い、ブオーゾの親戚たちが今持ち出していった品物を両手一杯に取り戻してきたスキッキは、彼らをうれしげに眺める。

主な登場人物

ジャンニ・スキッキ（バリトン）、フィレンツェ市外に住む田舎者だが、法律に詳しく、物真似上手で機転の効く男、50歳

ラウレッタ（ソプラノ）、その娘、21歳

リヌッチォ（テノール）、大富豪ブオーゾ・ドナーティの甥、ラウレッタとは恋仲、24歳

その他、ブオーゾの親戚一同、医者、公証人、証人など

アリア「私のお父さん」の歌詞

Oh! mio babbino caro	ねえ！ やさしいおとう様、
mi piace e bello, bello;	あのかたが好きなの、すばらしい、すばらしい
vo' andare in Porta Rossa	ポルタ・ロッサへ行きたいの
a comperar l'anello!	愛の指輪を買いに！
Si, si, ci voglio andare!	ほんとう！ ほんとう！ あそこへ行きたいの！
E se l'amassi indarno!	もしあのかたを愛するのがむだなことならば
andrei sul Ponte Vecchio,	ポンテ・ヴェッキオに行きます、
ma per buttarmi in Arno!	アルノ川に身を投げに！
Mi struggo e mi tormento!	恋が私の胸を燃やし、苦しめるの！
O Dio, vorrei morir!	どうぞ、神様、死なせて下さい！
Babbo, pieta, pieta!	おとう様、どうぞお願い、哀れみを！
Babbo, pieta, pieta!	おとう様、どうぞお願い、哀れみを！



ポルタ・ロッサ通りの銘板



ウフィッツィの回廊から見た
ベッキオ橋とアルノ川

ドラマの舞台

1299 年頃のフィレンツェ

市の中心部を東から西にアルノ川が流れるルネッサンス時代を代表する美しい街フィレンツェ。メディチ家前の 13 世紀末の様子は？ 12 世紀初め、民衆による自由都市誕生以来発展を続け、13 世紀末には数年間で新しい城壁を建造、人口 3 万人以上に急増。国際経済の中心都市として異職種組合が発展した。

ヴェッキオ橋 13 世紀から建造された**ヴェッキオ橋**は度々の洪水で破壊され、1333 年の洪水で完全に流された。その後再建された橋上は肉市場になった。店の上にバザーリの回廊が建設されヴェッキオ宮殿とピッティ宮殿が結ばれたのは 1565 年。1594 年に肉屋、八百屋を立ち退かせ彫金職人を集めて現在の貴金属店街になった。

ヴェッキオ宮殿 1299-1300 年にフィレンツェ共和国の政庁者として建築された。当時の政府評議会議員の記録にメディチの名前がでている。

サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂 1296 年に 3 代目のドームをもつ大聖堂の建設を開始。現在の形が完成したのは 15 世紀の半ば。銅製の巨大な扉は 1903 年に完成。

ポルタ・ロッサ通り 当時の建物が現存する。なお、ポルタ・ロッサホテルは 1386 年の建造。

ダンテの「神曲」

ダンテはフィレンツェ出身の詩人、哲学者、政治家。14 世紀初めに地獄篇、煉獄編、天国編からなる韻文詩「喜劇」をラテン語でなくフィレンツェ語で書いた。ダンテより 50 歳ほど年下の「デカメロン」著者ボッカッチョが冠詞“神聖なる”を付けて「神聖喜劇」とし、森鷗外が「即興詩人」のなかで「神曲」と翻訳した。

右の絵はダンテと同時代の画家ジョット作ダンテの肖像画（バルジェッロ礼拝堂）。



ダンテの「神曲」と「ジャンニ・スキッキ」

題材は「神曲」の地獄篇第 30 歌から採られたが「ジャンニ・スキッキ」の名が現れるのは僅か 3 行。この歌劇の台本作者ジョヴァッキーノ・フォルツァーノは、文献学者ピエトロ・ファンファーニが刊行した「神曲」（1866 年）の「付録」、「14 世紀の『無名のフィレンツェ人』の著した『ジャンニ・スキッキとは何者で、何をしたか』の解説文」を使用したと考えられている。

右の絵は大聖堂壁画のドメニコ・ディ・ミケリーノ作「ダンテと詩」（1465 年）。

